



令和4年度スポーツ庁委託事業

令和の日本型学校体育構築支援事業 「障害の有無にかかわらず 共に学ぶ体育授業の充実」 事業報告書

概要版



ボール運動系(ネット型)授業の様子



ボール運動系(ゴール型)授業の様子



「運動の日常化」をねらった運動の様子



「チャレンジサーキット」の様子

1 本事業について

(1) 目的

通常学級の体育授業において、障害の有無にかかわらず児童生徒が共に学ぶための指導内容や指導方法等の工夫について実践研究を行い、全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現する体育の授業改善を図る。

(2) 内容

児童生徒の障害種別や程度、発達段階に応じて、

- ① 体育の授業改善「学習プログラムの開発」・「個に応じた指導の工夫」
- ② 学校体育活動の工夫・改善「運動機会の確保」・「個に応じた指導の工夫」を内容とする。

2 体育の授業改善「学習プログラムの開発」・「個に応じた指導の工夫」

◆授業づくりの考え方（例）

- ① 児童の「困り感」を見取る。
- ② その児童の「困り感」に合わせた授業の「しかけ」を次の3点で考える。
 - ・「もの」の工夫（体育で使う用具の工夫をする）
 - ・「人」の工夫（ペアやグループの配慮を行う）
 - ・「ルール」の工夫（ゲームのルールの工夫をする）



ボール運動系（ネット型）高学年	<h3>児童の「困り感」</h3>	<h3>授業の主な「しかけ」</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <h4>「もの」の工夫</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行器を利用する。 ・ネットを低くする。 </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <h4>「ルール」の工夫</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・座った状態でも実施可能な「シッティングバレー」のルールにする。 </div> </div>
ボール運動系（ネット型）高学年	<h3>児童の「困り感」</h3>	<h3>授業の主な「しかけ」</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <h4>「もの」の工夫</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・落下速度が遅いボールを使う。 ・ネットを低くする。 </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <h4>「ルール」の工夫</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチありのルールにする。 ・1パウンドありのルールにする。 </div> </div>
ボール運動系（ゴール型）高学年	<h3>児童の「困り感」</h3>	<h3>授業の主な「しかけ」</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <h4>「もの」の工夫</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・パック型のボールを使用する。 ・ゴールを広くする。 </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <h4>「ルール」の工夫</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃一方通行のルールにする。 ・守備固定のルールにする。 </div> </div>

児童の「困り感」

みんなと同じように技がうまくできない。



授業の主な「しかけ」

「もの」の工夫



・ハーフマットや下り坂のマットを使用する。

「ルール」の工夫



・児童の技能差に合わせた場を設定し、2人1組で「シンクロ技」の発表会をする。

児童の「困り感」

台上前転をする際、跳び箱の幅が狭いので失敗すると落ちてしまうので、痛い。



授業の主な「しかけ」

「もの」の工夫



・跳び箱を2台並べて、跳び箱の幅を広くする。
・セーフティマットや柔らかい材質の跳び箱を使用する。

「人」の工夫



・2人1組で学び合い、タブレット端末を活用して、自分の動きを確認できるようにする。

3 学校体育活動の工夫・改善「運動機会の確保」「個に応じた指導の工夫」

◎取組みの紹介

①異学年で交流しながら多様な運動ができる「チャレンジサーキット」

設定時間 毎週金曜日
朝の活動時間(15分間)

対象児童 全校児童(1～6年)

活動のポイント

(運動の例)



「走の運動」



「投の運動」



「器械運動系」

・児童の体力・運動能力向上のための運動を9種目設定した。
・見通しを立てるのが難しい児童が在籍していることから、「どこで」「どの種目を」して「どのようにサーキットコースを回ったらよいか」について、掲示物を工夫した。

②「運動の日常化」をねらった外遊びの充実(その1)

設定時間 全校ドリルタイムの時間
(15分間)

対象児童 全校児童(1～6年)

活動のポイント

(運動の例)



「フラフープ回し」



「登り棒のぼり」

・運動技能や体力が高くないでも、コツをつかめば誰にでもできる種目を設定した。
・児童の運動能力に応じて目標を設定できるようにするとともに、外遊びにつながるように固定遊具を活用した。

③「運動の日常化」をねらった外遊びの充実(その2)

設定時間 昼休みの時間(40分間)

対象児童 全校児童(1~6年)

活動のポイント

- ・6年児童発信により、「総合的な学習の時間」の学習と関連させながら、障害の有無に関わらず合理的な配慮のもとに全ての児童及び教員が共に楽しめるルールを設定した。

(運動の例)



「ボッチャ」



「モルック」



「ストラックアウト」

④「運動の日常化」をねらった外遊びの充実(その3)

設定時間 昼休みの時間(40分間)

対象児童 全校児童(1~6年)

活動のポイント

- ・体育館にある用具を活用して、多様な運動ができる場を設定した。
- ・「当たっても痛くない」ドッジビーの大会を行った。

(運動の例)



「マットを活用した運動」



「ドッジビー大会」

⑤「体力向上」及び「技能向上」をねらった陸上練習の充実

設定時間 始業前(20分間)
放課後の時間(60分間)

対象児童 4~6年の希望児童

活動のポイント

- ・達成感を感じさせるために、体力向上の目的で参加することも可能にした。
- ・恐怖心を取り除くためにハードルの板をウレタン製のものに変更した。

(運動の例)



「ハードル走の練習」



「短距離走の練習」

4 パラスポーツ体験用具の貸出し(2週間)(令和5年度も継続)

ボッチャボール	ゴールボール	ブラインドサッカーボール	シッティングバレーボール	パラスポーツ体験用具貸し出しホームページ 
				
ボッチャシート	ロトサウンドボール	アイシェード/アイマスク	シッティングバレーボールネット	
				

※ 香川県教育委員会事務局保健体育課で貸出中。

令和4年度 研究実践推進校

番	校種	学校名
1	小学	高松市立新番丁小学校
2		高松市立屋島西小学校
3		高松市立牟礼南小学校
4		高松市立国分寺北部小学校
5		三豊市立吉津小学校
6		三豊市立麻小学校
7		三豊市立二ノ宮小学校

令和4年度 推進委員会推進委員

番	所属等	氏名
1	香川大学教育学部准教授	米村耕平
2	香川県小学校体育連盟代表	宮谷恭彦
3	香川県中学校体育連盟代表	大谷昌三
4	香川県特別支援学校校長会代表	北村宏美
5	香川県教育委員会事務局義務教育課長	三好健浩
6	香川県教育委員会事務局特別支援教育課長	藤田明
7	香川県教育委員会事務局保健体育課課長	宮滝寛己